

音楽アーティスト科 ベースコース 受講科目一覧 1年次

ベース&クリエイター専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル発展Ⅰ	68	2	4
実習	DAW・DTM基礎Ⅰ	68	2	2
実習	DAW・DTM応用Ⅰ	68	2	2
合計		888	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学びます。 後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作者に關わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に關わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドメイキングⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース/ギター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。				
授業概要					
ベース・アンプ・エフェクターを用いた音作り方法を学び、演奏現場や自身の音楽活動へ活かせる知識を身につける。					
到達目標					
・様々なジャンルや奏法に求められるサウンドを、アンプやエフェクターを用いて表現することができる。					
・自分のプレイスタイルに合ったサウンドを、自らの知識で表現する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【エレキベースについて】 ジャズベース・プレジジョンベース・スティングレイなど様々なベースのサウンドを聴き、どのような違い・特長があるのかを学ぶ。
【前期】 4～7回目	【ベースアンプについて】 Ampeg・Markbass・Aguilarなど様々なアンプのサウンドを聴き、どのような違い・特長があるのかを学ぶ。
【前期】 8～10回目	【ベースリストと音作り①】 ジェームス・ジェマーソン 課題曲を用いながらモータウン風の音作りを学ぶ。
【前期】 11～13回目	【ベースリストと音作り②】 バーナード・エドワーズ、スチュアート・ゼンダー 課題曲を用いながらファンク風の音作りを学ぶ。
【前期】 14～17回目	【ベースリストと音作り③】 ラリー・グラハム、マーカス・ミラー 課題曲を用いながらスラップ奏法での音作りを学ぶ。 ■前期試験:ベースによるサウンドの違いが理解できているか確認する。
【後期】 18～20回目	【エフェクターと音作り①】 SANSAMP・MXR・EBSなど、プリアンプでの音作りについて学ぶ。
【後期】 21～24回目	【エフェクターと音作り②】 オーバードライブ・ディストーションなど、歪みエフェクターの使い方について学ぶ。
【後期】 25～27回目	【エフェクターと音作り③】 コーラス・ディレイ・リバーヴなどのモジュレーション系エフェクターの使い方について学ぶ。
【後期】 28～30回目	【エフェクターと音作り④】 コンプレッサー・リミッターなど圧縮系のエフェクターについて学ぶ。
【後期】 31～34回目	【エフェクターと音作り⑤】 実際にエフェクターを使い、組み合わせによってどのようなサウンドの変化があるのかを学ぶ。 ■後期試験:課題曲を選んで演奏し、「サウンドメイクへの理解度」を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ベース/アンプ/エフェクター」の3項目のサウンドメイクへの理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	良い演奏をするにはもちろん出音も良くないといけません。 自分好みの音を自分の力で作り出せるようになりましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー & イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ギター/ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われるがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース/ギター/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・JUON、MACO、TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello、The Baker Brothers、US3等様々なアーティストとの共演。				

授業概要

音楽の三大要素であるリズムを理解し、小節や指の概念を理解する。リズムに関する記号や音符を理解する。ロック/ブルース/ジャズ/ファンク/レゲイ/フュージョン/メタル他、ルーツミュージックなどをスタイル別に、また世界的スタンダードナンバーの持つリズムの歴史が後世に与えたインパクトなどを知識として理解していきます。

到達目標

- ・世界の様々な音楽のリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。
- ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。
- ・誰と演奏してもぶれないリズム、グルーヴを身につける。
- ・譜面に出てくる色々な記号を理解する。
- ・譜面を読むスピードが速くなるよう初見に強くなる。

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Unit1～4 カウント、ブルースの練習、リハーサルマーク、8ビートリズムパターン確認、ダイナミクス、シンコペーション。
【前期】 4～7回目	Unit5～8 Pick up Note、スタート練習、キュー確認、マイナーブルース、様々なリズム遊び。
【前期】 8～10回目	Unit9～12 セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、カッポ、ダカーポ、ハーフタイム。
【前期】 11～13回目	Unit13～16 ロックシャッフル、スウィングシャッフル、ウォーキングベースに挑戦する。
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Unit17～19 12/8フィール系リズム、ダイナミクスの表現、Funkスタイル演奏
【後期】 21～24回目	Unit20～23 16ビートのブラックフィール、ラテンフィール、Funk演奏
【後期】 25～27回目	Unit24～27 ファンキーなR&Bスタイル、はねた16ビートパターン、レゲエ、スカ演奏
【後期】 28～30回目	Unit28～30ボサノヴァ、セカンドライン、現場をイメージして演奏
【後期】 31～34回目	【後期まとめ】後期の内容を復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / サウンド / テクニック」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	世界の様々な音楽のリズム、グルーブに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになりましょう。 バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけるよう心がけましょう。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	フレットボード&スケールⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。				
授業概要					
スケール、コードトーンの理解と、指板との紐付けを理解する。					
到達目標					
・机上で学んだ理論を実際の演奏に活かすために、楽器で確認し応用できる力を身につける。					
・コード譜を見ての様々な解釈ができるようになる。					
・コード譜のみで演奏できる技術を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ポジションプレイの考え方 メジャースケール、マイナースケール。音程について。指板上の音の配置。
【前期】 4～7回目	三和音の説明、メジャーコードマイナーコードについて。ダイアトニックトライアド。
【前期】 8～10回目	四和音の説明。セブンスコード、ダイアトニック。セブンスコードのアルペジオ。
【前期】 11～13回目	マイナーキーのダイアトニックについてマイナーキーのダイアトニックコードのアルペジオ。
【前期】 14～17回目	ダイアトニック コード進行、コードのファンクションについて。 ■前期試験：課題曲の演奏にて「技量 / 理解度」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ブルース進行、セブンスコードを使ったブルージーなコード、ジャズブルースのコード。
【後期】 21～24回目	ノンダイアトニックコードについて。モーダルインターチェンジ、セカンダリドミナントなど。
【後期】 25～27回目	キーセンター及び転調について。
【後期】 28～30回目	その他のスケール、応用。考え方、トレーニング。
【後期】 31～34回目	コードとそれに関連したスケールについて。 ■後期試験：課題曲の演奏にて「技量 / 理解度」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「技量 / 理解度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論を実際の演奏に活かすために、楽器で確認し応用できる力を身につけることを目的としています。 この技術を習得すると、ただ単に楽曲をコピーするだけでなく、自分でアレンジできるようになります。 また、オリジナル楽曲の制作にも必ず役に立つはずです。
備考	使用教科書「フレットボード1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニックⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
基本的な右手の演奏技法の習得(ツーフINGER、スラップ、ピック)。正しい左手のポジショニングによる効率的な演奏法の習得。					
到達目標					
・ベースという楽器の役割を理解しながら、必要な知識と技術を習得し実際の演奏に生かせるようになる。 ・勤や偶然に頼らずに自分の頭で考えた演奏が出来るようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・楽器の構造について、右手と左手のフォーム ・フィンガートレーニング 弦移動を含むエクササイズ
【前期】 4～7回目	・ピック弾きの方法及び練習 ・メカニカルトレーニング、ピッキングと運指の練習。指番号を使ったエクササイズ。
【前期】 8～10回目	・リズムについて グルーヴ 7週目 グルーヴ パルス、テンポ、フィールのエクササイズ
【前期】 11～13回目	・音符の種類と長さについて ・アタックと音の長さ 音価について ・オモテとウラのイーブンについて
【前期】 14～17回目	・クリックを意識したトレーニング ・シフティングとアーティキュレーションについて ■前期試験:課題曲の演奏にて「技量 / 理解度 / 独自性」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	・左手のテクニックについて
【後期】 21～24回目	・スラップ奏法の練習 ・コード奏法について
【後期】 25～27回目	・ハーモニクス、タッピングその他の特殊な奏法について
【後期】 28～30回目	・コード奏法 応用編
【後期】 31～34回目	・変拍子のリズムとその有名なパターン ■後期試験:課題曲の演奏にて「技量 / 理解度 / 独自性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「技量 / 理解度 / 独自性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の力を信じて思い切りチャレンジしてください。失敗を恐れずに。楽器を弾いた時間だけ音楽も応えてくれるはず。
備考	使用教科書「ブレイングテクニック1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター/ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	・JUON、MACO、TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello、The Baker Brothers、US3等様々なアーティストとの共演。					
授業概要						
音楽の三大要素の1つである「リズム」を理解し、小節や運指の概念を理解する。またリズムに関する記号や音符を理解する。						
到達目標						
・世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。 ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。 ・誰と演奏してもぶれないリズム、グループを身につける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Unit1～4 カウント、ブルースの練習、リハーサルマーク、8ビートリズムパターン確認、ダイナミクス、シンコペーション。
【前期】 4～7回目	Unit5～8 Pick up Note、スタート練習、キュー確認、マイナーブルース、様々なリズム遊び。
【前期】 8～10回目	Unit9～12 セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、カッコ、ダカーポ、ハーフタイム。
【前期】 11～13回目	Unit13～16 ロックシャッフル、スウィングシャッフル、ウォーキングベースに挑戦する。
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Unit17～19 12/8フィール系リズム、ダイナミクスの表現、Funkスタイル演奏
【後期】 21～24回目	Unit20～23 16ビートのブラックフィール、ラテンフィール、Funk演奏
【後期】 25～27回目	Unit24～27 ファンキーなR&Bスタイル、はねた16ビートパターン、レゲエ、スカ演奏
【後期】 28～30回目	Unit28～30ボサノヴァ、セカンドライン、現場をイメージして演奏
【後期】 31～34回目	【後期まとめ】後期の内容を復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / サウンド / テクニック」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになりましょう。 バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけるよう心がけましょう。
備考	使用教科書「Rhythm Reading Workout」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ベース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン						
授業概要							
人前でライブやコンサートをするために必要な奏法・表現力を高め、ステージマンとしての力をつけます。 アンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスの実現を目指す授業です。							
到達目標							
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。							
・課題曲に内包されているテクニックやリズムグループパターンを自らのうちに着実に取り込み表現できるようにする。							
・ショーとして成り立たせるためのパフォーマンスができるようになる。							
・学んだこと、考えたことを人前で披露できる力を習得する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】8ビートのルート弾きの音の粒を揃える。ユニゾンフレーズの際他のメンバーと息を合わせるために、自分以外の音を聞く事を心がける。2、4拍目に合わせて体を揺らす。
【前期】 4～7回目	【課題曲②】シャッフルのリズムに慣れる。ドラムの音をしっかり聴いて音を切るタイミングを考える。Aメロ、Bメロ、サビの音符の長さの違いに気をつける。エンディングの長さを見失わないように、ナチュラルサイクルを意識する。
【前期】 8～10回目	【課題曲③】16ビートのフレーズは勢いで弾くのではなく、しっかり弦を揺らす事を意識する。最後のサビのritするところはメンバーの呼吸を読み取り演奏する。アウトロのベースが目立つフレーズの箇所ではどうアピールするか考える。
【前期】 11～13回目	【課題曲④】Aメロのベースラインはボーカルに寄り添うように、決して自分勝手なプレイにならないように心がける。セクション毎の場面展開をハッキリとさせ、曲にダイナミクスを付ける。演奏中の目線、体の動きなどステージングを意識する。
【前期】 14～17回目	前期テストと復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】セクション毎に変わるリズムの変化に気をつける。ブレイクの部分の音の長さ又を意識して演奏する。又、視覚的効果も取り入れてみる。
【後期】 21～24回目	【課題曲⑥】ゆったりとしたテンポの楽曲だが、細かいリズムを体に感じて演奏する。3連のフレーズはピッキングする指が交互になるので、あらかじめ確認してもたつかないようにする。
【後期】 25～27回目	【課題曲⑦】Bメロのスラップフレーズは何拍目にブルが来ているのかしっかり把握しておく。エンディングはロストしやすい構成になっているので、小説数を数えるだけではなくメロディラインを歌えるくらい覚える。ベースソロ時のパフォーマンスを考える。
【後期】 28～30回目	【課題曲⑧】A、Bメロのダークさに打って変ってサビでは一転明るい雰囲気になる。その時のダイナミクスや、その他の表現方法に注意して演奏する。ユニゾンフレーズは自分と相手の呼吸を合わせて演奏する。
【後期】 31～34回目	後期テストと復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / ダイナミクス / ステージング」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	上手に演奏するということは、表現したいことを再現するために必要な要素ですが、この授業ではその他の重要な要素でもある「ステージング」のことも学んでいきます。ライブを見に来てくれたお客さんに満足してもらうにはどうしたらいいか常に考える思考回路を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン						
授業概要							
人前でライブやコンサートをするために必要な奏法・表現力を高め、ステージマンとしての力をつけます。 アンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスの実現を目指す授業です。 ※アンサンブル基礎Ⅰのニコマ目として実施							
到達目標							
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。							
・課題曲に内包されているテクニックやリズムグループパターンを自らのうちに着実に取り込み表現できるようにする。							
・ショーとして成り立たせるためのパフォーマンスができるようになる。							
・学んだこと、考えたことを人前で披露できる力を習得する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】8ビートのルート弾きの音の粒を揃える。ユニゾンフレーズの際他のメンバーと息を合わせるために、自分以外の音を聞く事を心がける。2、4拍目に合わせて体を揺らす。
【前期】 4～7回目	【課題曲②】シャッフルのリズムに慣れる。ドラムの音をしっかり聴いて音を切るタイミングを考える。Aメロ、Bメロ、サビの音符の長さの違いに気をつける。エンディングの長さを見失わないように、ナチュラルサイクルを意識する。
【前期】 8～10回目	【課題曲③】16ビートのフレーズは勢いで弾くのではなく、しっかり弦を揺らす事を意識する。最後のサビのritするところはメンバーの呼吸を読み取り演奏する。アウトロのベースが目立つフレーズの箇所ではどうアピールするか考える。
【前期】 11～13回目	【課題曲④】Aメロのベースラインはボーカルに寄り添うように、決して自分勝手なプレイにならないように心がける。セクション毎の場面展開をハッキリとさせ、曲にダイナミクスを付ける。演奏中の目線、体の動きなどステージングを意識する。
【前期】 14～17回目	前期テストと復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】セクション毎に変わるリズムの変化に気をつける。ブレイクの部分の音の長さ又を意識して演奏する。又、視覚的効果も取り入れてみる。
【後期】 21～24回目	【課題曲⑥】ゆったりとしたテンポの楽曲だが、細かいリズムを体に感じて演奏する。3連のフレーズはピッキングする指が交互になるので、あらかじめ確認してもたつかないようにする。
【後期】 25～27回目	【課題曲⑦】Bメロのスラップフレーズは何拍目にブルが来ているのかしっかり把握しておく。エンディングはロストしやすい構成になっているので、小説数を数えるだけではなくメロディラインを歌えるくらい覚える。ベースソロ時のパフォーマンスを考える。
【後期】 28～30回目	【課題曲⑧】A、Bメロのダークさに打って変ってサビでは一転明るい雰囲気になる。その時のダイナミクスや、その他の表現方法に注意して演奏する。ユニゾンフレーズは自分と相手の呼吸を合わせて演奏する。
【後期】 31～34回目	後期テストと復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / ダイナミクス / ステージング」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	上手に演奏するということは、表現したいことを再現するために必要な要素ですが、この授業ではその他の重要な要素でもある「ステージング」のことも学んでいきます。ライブを見に来てくれたお客さんに満足してもらうにはどうしたらいいか常に考える思考回路を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタイルⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル発展Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター/ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。					
授業概要						
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。						
到達目標						
・様々なジャンルのベースプレイ、特にリズムの特徴などにフォーカスし学習する。代表的なアーティスト、楽曲を知り、題材のフレーズを実際に演奏し自身のスキルアップに繋げ、代表的なアーティスト、楽曲を知ることにより各音楽ジャンルの特徴を理解する。						
・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等) 【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等) 【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 4～7回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chili Peppers等) 【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等) 【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等) 【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 8～10回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等) 【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 11～13回目	テストレビュー/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等) 【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等) 【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 21～24回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等) 【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 25～27回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等) 【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) /後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) /テストレビュー
【後期】 31～34回目	【年間まとめ】 ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	当授業は、様々なジャンルの音楽に触れ実際に演奏することで、自身の演奏・音楽的知識、可能性の幅をどんどん広げていきます。スキルアップはもちろん、今まで知らなかったジャンルを身につけることで自身の活動での演奏、作曲、アレンジにも役立つでしょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。					
授業概要						
Logic Pro等のDAWソフトを用いり基本操作及び楽曲制作の基礎知識を習得します。 PC(Mac)の操作を理解・習得します。 音源制作を行う手順を一から理解できるようにします。 プロジェクトや作曲を行っていく上で、どのようなアプローチで楽曲制作していくかを習得します。						
到達目標						
・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。						
・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。						
・学生自身で作詞・作曲した作品を、DAWを用いて具体化することができる。						
・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。						
・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みから、ギターやヴォーカルなどのオーディオRECに関するDAW全般の操作を習得する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	logicの起動、終了、作成ファイルの管理/録音、デバイス設定/ステップ入力、リアルタイム入力、オーディオREC
【前期】 4～7回目	譜面の読み方/耳コピ曲を決める、前期までにこれを完成させる
【前期】 8～10回目	ドラム打ち込み(8ビート、16ビート、4つうち、フィル、クオンタイズ)/ドラム打ち込み(ドラマー、808kit、その他ドラム音色)/ベースの打ち込み(ルート、3th、5th、オクターブ奏法)
【前期】 11～13回目	ピアノの打ち込み(右手・左手のフォーム、ストラムとアルペジオ)/ギターの打ち込み(適正なポインティング、ピアノロール画面8va移動)
【前期】 14～17回目	シンセメロの打ち込み(メロディック、ポリフォニック、単音耳コピ)/ボーカル録音(入力レベル、パンチIN OUT)/バウンス、Googleドライブでファイルバックアップ ■前期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ストリングスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)(音色の種類、logic、コンタクト)/プラスの使い方(アーティキュレーションの動かし方)
【後期】 21～24回目	プラスの使い方(音色の種類、logic、コンタクト)/オートメーション(クレッシェンド、デクレッシェンド)/woodwindの使い方(特にフルート、sax)
【後期】 25～27回目	シンセの使い方(音の3要素、オシレーター)/シンセの使い方(フィルター、ADSR)/シンセの使い方(LFO、モノ、ポリ)
【後期】 28～30回目	オートメーション(ビルドアップの作り方)/サイドチェインの作り方
【後期】 31～34回目	コンプ・EQ・リバーブの使い方/ディレイ・コーラス・モジュレーションの使い方 ■後期試験:オリジナル楽曲の制作により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	作詞・作曲は、音楽業界では中心になります。楽曲がなければ、レコーディンもできないし、ライブもできない、PAや照明などの業種も存在しなくなります。 アーティストは楽曲を作成し販売をする商売です。その為に必要なノウハウをDAWを使って勉強していきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	コンピューターレコーディングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	DAW・DTM応用Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター/ベース/ドラム						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	メジャーアーティスト(M!LK「Good Morning Mr.Mistake」等)への編曲提供をはじめ、企業CMやゲーム音楽制作、効果音制作など幅広いキャリアを持つ。 レコーディング・ミキシングエンジニアとしても多くの現場に携わり、制作からアウトプットまで一気通貫したスキルを保持。現場主義の視点から、即戦力となる作編曲・ミキシング技術の実践的な指導にあたっている。						
授業概要							
楽器奏者が必要なレコーディングの技術と知識を身につけます。							
到達目標							
・マイキングやインターフェースの調整など、レコーディングに必要な機材の基礎知識を身に付ける。							
・レコーディング時のPCでのDAWオペレーションを理解し実践出来る様になる。							
・レコーディングした音源をエディット、ミックスで調整出来る様になる。							
・楽曲に対して録音が出来る様になる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディングの基礎知識、機材や備品の使用方法について
【前期】 4～7回目	インターフェースやDAWの接続、録音について
【前期】 8～10回目	楽器の接続やマイキング、レコーディング
【前期】 11～13回目	レコーディングした音の確認、トラックやミキサーについて
【前期】 14～17回目	前期まとめ ■前期試験:楽器のレコーディング技術と知識の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	レコーディングした音のエディット方法、ミックス術
【後期】 21～24回目	楽曲に合わせてレコーディング
【後期】 25～27回目	ミックスダウンの進め方、手法について
【後期】 28～30回目	マスタリングの進め方について
【後期】 31～34回目	年間まとめ ■後期試験:DAW上でのオペレーション技術と知識の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「読譜 / 記譜 / 演奏力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	昨今は楽器奏者が自身で自宅やスタジオでレコーディングする事が多くなっています。 レコーディング技術を身に付けて楽曲制作や将来レコーディングの依頼が来た時に役立てましょう。
備考	

音楽アーティスト科 ベースコース 受講科目一覧 1年次

ベース総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅰ	68	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル発展Ⅰ	68	2	4
合計		888	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学びます。 後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作権に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作権に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作権に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドメイキングⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修		
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター/ベース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。						
授業概要							
ベース・アンプ・エフェクターを用いた音作り方法を学び、演奏現場や自身の音楽活動へ活かせる知識を身につける。							
到達目標							
・様々なジャンルや奏法に求められるサウンドを、アンプやエフェクターを用いて表現することができる。							
・自分のプレイスタイルに合ったサウンドを、自らの知識で表現する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【エレキベースについて】 ジャズベース・プレジジョンベース・スティングレイなど様々なベースのサウンドを聴き、どのような違い・特長があるのかを学ぶ。
【前期】 4～7回目	【ベースアンプについて】 Ampeg・Markbass・Aguilarなど様々なアンプのサウンドを聴き、どのような違い・特長があるのかを学ぶ。
【前期】 8～10回目	【ベースリストと音作り①】 ジェームス・ジェマーソン 課題曲を用いながらモータウン風の音作りを学ぶ。
【前期】 11～13回目	【ベースリストと音作り②】 バーナード・エドワーズ、スチュアート・ゼンダー 課題曲を用いながらファンク風の音作りを学ぶ。
【前期】 14～17回目	【ベースリストと音作り③】 ラリー・グラハム、マーカス・ミラー 課題曲を用いながらスラップ奏法での音作りを学ぶ。 ■前期試験:ベースによるサウンドの違いが理解できているか確認する。
【後期】 18～20回目	【エフェクターと音作り①】 SANSAMP・MXR・EBSなど、プリアンプでの音作りについて学ぶ。
【後期】 21～24回目	【エフェクターと音作り②】 オーバードライブ・ディストーションなど、歪みエフェクターの使い方について学ぶ。
【後期】 25～27回目	【エフェクターと音作り③】 コーラス・ディレイ・リバーヴなどのモジュレーション系エフェクターの使い方について学ぶ。
【後期】 28～30回目	【エフェクターと音作り④】 コンプレッサー・リミッターなど圧縮系のエフェクターについて学ぶ。
【後期】 31～34回目	【エフェクターと音作り⑤】 実際にエフェクターを使い、組み合わせによってどのようなサウンドの変化があるのかを学ぶ。 ■後期試験:課題曲を選んで演奏し、「サウンドメイクへの理解度」を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ベース/アンプ/エフェクター」の3項目のサウンドメイクへの理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	良い演奏をするにはもちろん出音も良くないといけません。 自分好みの音を自分の力で作り出せるようになりましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー & イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ギター/ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われるがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・JUON、MACO、TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello、The Baker Brothers、US3等様々なアーティストとの共演。				

授業概要

音楽の三大要素であるリズムを理解し、小節や指の概念を理解する。リズムに関する記号や音符を理解する。ロック/ブルース/ジャズ/ファンク/レゲエ/フュージョン/メタル他、ルーツミュージックなどをスタイル別に、また世界的スタンダードナンバーの持つリズムの歴史が後世に与えたインパクトなどを知識として理解していきます。

到達目標

- ・世界の様々な音楽のリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。
- ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。
- ・誰と演奏してもぶれないリズム、グルーヴを身につける。
- ・譜面に出てくる色々な記号を理解する。
- ・譜面を読むスピードが速くなるよう初見に強くなる。

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Unit1～4 カウント、ブルースの練習、リハーサルマーク、8ビートリズムパターン確認、ダイナミクス、シンコペーション。
【前期】 4～7回目	Unit5～8 Pick up Note、スタート練習、キュー確認、マイナーブルース、様々なリズム遊び。
【前期】 8～10回目	Unit9～12 セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、カッコ、ダカーポ、ハーフタイム。
【前期】 11～13回目	Unit13～16 ロックシャッフル、スウィングシャッフル、ウォーキングベースに挑戦する。
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Unit17～19 12/8フィール系リズム、ダイナミクスの表現、Funkスタイル演奏
【後期】 21～24回目	Unit20～23 16ビートのブラックフィール、ラテンフィール、Funk演奏
【後期】 25～27回目	Unit24～27 ファンキーなR&Bスタイル、はねた16ビートパターン、レゲエ、スカ演奏
【後期】 28～30回目	Unit28～30ボサノヴァ、セカンドライン、現場をイメージして演奏
【後期】 31～34回目	【後期まとめ】後期の内容を復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / サウンド / テクニック」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	世界の様々な音楽のリズム、グルーブに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになりましょう。 バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけるよう心がけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	フレットボード&スケールⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。				
授業概要					
スケール、コードトーンの理解と、指板との紐付けを理解する。					
到達目標					
・机上で学んだ理論を実際の演奏に活かすために、楽器で確認し応用できる力を身につける。					
・コード譜を見ての様々な解釈ができるようになる。					
・コード譜のみで演奏できる技術を習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ポジションプレイの考え方 メジャースケール、マイナースケール。音程について。指板上の音の配置。
【前期】 4～7回目	三和音の説明、メジャーコードマイナーコードについて。ダイアトニックトライアド。
【前期】 8～10回目	四和音の説明。セブンスコード、ダイアトニック。セブンスコードのアルペジオ。
【前期】 11～13回目	マイナーキーのダイアトニックについてマイナーキーのダイアトニックコードのアルペジオ。
【前期】 14～17回目	ダイアトニックコード進行、コードのファンクションについて。 ■前期試験：課題曲の演奏にて「技量 / 理解度」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ブルース進行、セブンスコードを使ったブルージーなコード、ジャズブルースのコード。
【後期】 21～24回目	ノンダイアトニックコードについて。モーダルインターチェンジ、セカンダリドミナントなど。
【後期】 25～27回目	キーセンター及び転調について。
【後期】 28～30回目	その他のスケール、応用。考え方、トレーニング。
【後期】 31～34回目	コードとそれに関連したスケールについて。 ■後期試験：課題曲の演奏にて「技量 / 理解度」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「技量 / 理解度」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論を実際の演奏に活かすために、楽器で確認し応用できる力を身につけることを目的としています。 この技術を習得すると、ただ単に楽曲をコピーするだけでなく、自分でアレンジできるようになります。 また、オリジナル楽曲の制作にも必ず役に立つはずです。
備考	使用教科書「フレットボード1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニックⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン				
授業概要					
基本的な右手の演奏技法の習得(ツーフインガー、スラップ、ピック)。正しい左手のポジショニングによる効率的な演奏法の習得。					
到達目標					
・ベースという楽器の役割を理解しながら、必要な知識と技術を習得し実際の演奏に生かせるようになる。 ・勤や偶然に頼らずに自分の頭で考えた演奏が出来るようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・楽器の構造について、右手と左手のフォーム ・フィンガートレーニング 弦移動を含むエクササイズ
【前期】 4～7回目	・ピック弾きの方法及び練習 ・メカニカルトレーニング、ピッキングと運指の練習。指番号を使ったエクササイズ。
【前期】 8～10回目	・リズムについて グルーヴ 7週目 グルーヴ パルス、テンポ、フィールのエクササイズ
【前期】 11～13回目	・音符の種類と長さについて ・アタックと音の長さ 音価について ・オモテとウラのイーブンについて
【前期】 14～17回目	・クリックを意識したトレーニング ・シフティングとアーティキュレーションについて ■前期試験:課題曲の演奏にて「技量 / 理解度 / 独自性」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	・左手のテクニックについて
【後期】 21～24回目	・スラップ奏法の練習 ・コード奏法について
【後期】 25～27回目	・ハーモニクス、タッピングその他の特殊な奏法について
【後期】 28～30回目	・コード奏法 応用編
【後期】 31～34回目	・変拍子のリズムとその有名なパターン ■後期試験:課題曲の演奏にて「技量 / 理解度 / 独自性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「技量 / 理解度 / 独自性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の力を信じて思い切りチャレンジしてください。失敗を恐れずに。楽器を弾いた時間だけ音楽も応えてくれるはず。
備考	使用教科書「ブレイングテクニック1」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プレイング実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。						
授業概要							
一年間を通して、現代の音楽活動・制作に必要な、基本的音楽理論を学ぶ。また正確に楽譜を読み書きする能力と作曲の為の基礎知識を養います。							
到達目標							
様々なシチュエーションで使われる音楽理論。 その理論を基本的な部分から理解し、現代音楽の現場で実際に使えるコミュニケーションのツールとして、自分の知識を形成する。 また、関わる音楽を、より多角的・第三者的に捉えるための判断材料の一環として利用できるようになる。 世の中にある様々な楽曲、サウンドを、土台の部分から理解し、その楽曲のエッセンスを自分の曲やシチュエーションで利用できるようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音高・音名。シャープ系のメジャースケール。
【前期】 4～7回目	フラット系のメジャースケール。調号・キーサイン。インターバル。
【前期】 8～10回目	ダブルシャープ、ダブルフラット。インターバルの作成。トライアド。
【前期】 11～13回目	音符・休符。拍子・拍子記号。
【前期】 14～17回目	マイナースケール、同名調(同主調、パラレルキー) ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	メジャースケールのハーモニー。マイナースケールのハーモニー。
【後期】 21～24回目	ダイアトニックセブンス・コード。キーセンター。コードの転回形。
【後期】 25～27回目	テンションコード。コードのヴァリエーション。コードシンボル。
【後期】 28～30回目	モード。マイナーハーモニーとそのバリエーション。
【後期】 31～34回目	モーダルインターチェンジ。セカンダリー・ドミナント。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一見めんどくさいと思われるがちな科目ですが、基本が分かれば案外簡単です。深く潜りすぎない、必要最低限な項目をチョイスしたので、しっかり理解して皆さんの音楽に役立ててください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ベース&ドラムⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。					
授業概要						
・ベーシストが現場で要求される様々なシチュエーションを想定して、リズム隊の演奏バリエーションを深めていきます。 ・ドラマーとのコンビネーション、コミュニケーションを高めるメソッドを学習します。						
到達目標						
・小節や拍、ナチュラルサイクルを理解し、現場での対応力を身につけます。 ・ベースとドラムで歌がきこえるような演奏を目指します。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①、課題曲②8分音符を意識して演奏。
【前期】 4～7回目	課題曲③、課題曲④16分音符を意識して、突っ込んでないか確認。
【前期】 8～10回目	課題曲⑤、課題曲⑥前ノリ、後ノリを理解し、フィルを考えてみよう。
【前期】 11～13回目	課題曲⑦、課題曲⑧ハーフタイムシャッフル、音価を大切に弾こう。
【前期】 14～17回目	課題曲⑨、課題曲⑩ノリの良いアップテンポナンバー。テンポキープして弾こう。 ■前期試験:課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑪、課題曲⑫アップテンポナンバーでのスラップ、ゴーストノートの位置を変えてみよう。
【後期】 21～24回目	課題曲⑬、課題曲⑭タメ、9th、シンコペーションを上手く使用して演奏しよう。
【後期】 25～27回目	課題曲⑮、課題曲⑯歌っているベースラインにドラムが溶け込む演奏をしよう。
【後期】 28～30回目	課題曲⑰、課題曲⑱はねたビートのキメが何度もくるので、AメロBメロで振り落とされないように演奏する。
【後期】 31～34回目	課題曲⑲、課題曲⑳コーラスパートをベースで演奏し、音符の長さ、音価、ドラムとのバランスに気を付けて、ラスサビのキメをしっかりきめるように演奏する。 ■後期試験:課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / サウンド / テクニック/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業はバンドの要であるベースとドラムで8ビート、16ビート、ハーフタイムシャッフル、スウィング等の様々なスタイルの演奏をして、互いのコミュニケーションを高め現場に活かすための授業です。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター/ベース/ドラム					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	・JUON、MACO、TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello、The Baker Brothers、US3等様々なアーティストとの共演。					
授業概要						
音楽の三大要素の1つである「リズム」を理解し、小節や運指の概念を理解する。またリズムに関する記号や音符を理解する。						
到達目標						
・世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。 ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。 ・誰と演奏してもぶれないリズム、グループを身につける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Unit1～4 カウント、ブルースの練習、リハーサルマーク、8ビートリズムパターン確認、ダイナミクス、シンコペーション。
【前期】 4～7回目	Unit5～8 Pick up Note、スタート練習、キュー確認、マイナーブルース、様々なリズム遊び。
【前期】 8～10回目	Unit9～12 セクション、リハーサルマーク、リピートマーク、カッコ、ダカーポ、ハーフタイム。
【前期】 11～13回目	Unit13～16 ロックシャッフル、スウィングシャッフル、ウォーキングベースに挑戦する。
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	Unit17～19 12/8フィール系リズム、ダイナミクスの表現、Funkスタイル演奏
【後期】 21～24回目	Unit20～23 16ビートのブラックフィール、ラテンフィール、Funk演奏
【後期】 25～27回目	Unit24～27 ファンキーなR&Bスタイル、はねた16ビートパターン、レゲエ、スカ演奏
【後期】 28～30回目	Unit28～30ボサノヴァ、セカンドライン、現場をイメージして演奏
【後期】 31～34回目	【後期まとめ】後期の内容を復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / サウンド / テクニック」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / サウンド / テクニック」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになりましょう。 バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけるよう心がけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ベース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン						
授業概要							
人前でライブやコンサートをするために必要な奏法・表現力を高め、ステージマンとしての力をつけます。 アンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスの実現を目指す授業です。							
到達目標							
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。							
・課題曲に内包されているテクニックやリズムグループパターンを自らのうちに着実に取り込み表現できるようにする。							
・ショーとして成り立たせるためのパフォーマンスができるようになる。							
・学んだこと、考えたことを人前で披露できる力を習得する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】8ビートのルート弾きの音の粒を揃える。ユニゾンフレーズの際他のメンバーと息を合わせるために、自分以外の音を聞く事を心がける。2、4拍目に合わせて体を揺らす。
【前期】 4～7回目	【課題曲②】シャッフルのリズムに慣れる。ドラムの音をしっかり聴いて音を切るタイミングを考える。Aメロ、Bメロ、サビの音符の長さの違いに気をつける。エンディングの長さを見失わないように、ナチュラルサイクルを意識する。
【前期】 8～10回目	【課題曲③】16ビートのフレーズは勢いで弾くのではなく、しっかり弦を揺らす事を意識する。最後のサビのritするところはメンバーの呼吸を読み取り演奏する。アウトロのベースが目立つフレーズの箇所ではどうアピールするか考える。
【前期】 11～13回目	【課題曲④】Aメロのベースラインはボーカルに寄り添うように、決して自分勝手なプレイにならないように心がける。セクション毎の場面展開をハッキリとさせ、曲にダイナミクスを付ける。演奏中の目線、体の動きなどステージングを意識する。
【前期】 14～17回目	前期テストと復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】セクション毎に変わるリズムの変化に気をつける。ブレイクの部分の音の長さ又を意識して演奏する。又、視覚的効果も取り入れてみる。
【後期】 21～24回目	【課題曲⑥】ゆったりとしたテンポの楽曲だが、細かいリズムを体に感じて演奏する。3連のフレーズはピッキングする指が交互になるので、あらかじめ確認してもたつかないようにする。
【後期】 25～27回目	【課題曲⑦】Bメロのスラップフレーズは何拍目にブルが来ているのかしっかり把握しておく。エンディングはロストしやすい構成になっているので、小説数を数えるだけではなくメロディラインを歌えるくらい覚える。ベースソロ時のパフォーマンスを考える。
【後期】 28～30回目	【課題曲⑧】A、Bメロのダークさに打って変ってサビでは一転明るい雰囲気になる。その時のダイナミクスや、その他の表現方法に注意して演奏する。ユニゾンフレーズは自分と相手の呼吸を合わせて演奏する。
【後期】 31～34回目	後期テストと復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / ダイナミクス / ステージング」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	上手に演奏するということは、表現したいことを再現するために必要な要素ですが、この授業ではその他の重要な要素でもある「ステージング」のことも学んでいきます。ライブを見に来てくれたお客さんに満足してもらうにはどうしたらいいか常に考える思考回路を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン						
授業概要							
人前でライブやコンサートをするために必要な奏法・表現力を高め、ステージマンとしての力をつけます。 アンサンブルに必要な知識と技術、また優れたライブパフォーマンスの実現を目指す授業です。 ※アンサンブル基礎Ⅰのニコマ目として実施							
到達目標							
・バンド全体のサウンドを意識した演奏を習得する。							
・課題曲に内包されているテクニックやリズムグループパターンを自らのうちに着実に取り込み表現できるようにする。							
・ショーとして成り立たせるためのパフォーマンスができるようになる。							
・学んだこと、考えたことを人前で披露できる力を習得する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】8ビートのルート弾きの音の粒を揃える。ユニゾンフレーズの際他のメンバーと息を合わせるために、自分以外の音を聞く事を心がける。2、4拍目に合わせて体を揺らす。
【前期】 4～7回目	【課題曲②】シャッフルのリズムに慣れる。ドラムの音をしっかり聴いて音を切るタイミングを考える。Aメロ、Bメロ、サビの音符の長さの違いに気をつける。エンディングの長さを見失わないように、ナチュラルサイクルを意識する。
【前期】 8～10回目	【課題曲③】16ビートのフレーズは勢いで弾くのではなく、しっかり弦を揺らす事を意識する。最後のサビのritするところはメンバーの呼吸を読み取り演奏する。アウトロのベースが目立つフレーズの箇所ではどうアピールするか考える。
【前期】 11～13回目	【課題曲④】Aメロのベースラインはボーカルに寄り添うように、決して自分勝手なプレイにならないように心がける。セクション毎の場面展開をハッキリとさせ、曲にダイナミクスを付ける。演奏中の目線、体の動きなどステージングを意識する。
【前期】 14～17回目	前期テストと復習 ■前期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】セクション毎に変わるリズムの変化に気をつける。ブレイクの部分の音の長さ又を意識して演奏する。又、視覚的効果も取り入れてみる。
【後期】 21～24回目	【課題曲⑥】ゆったりとしたテンポの楽曲だが、細かいリズムを体に感じて演奏する。3連のフレーズはピッキングする指が交互になるので、あらかじめ確認してもたつかないようにする。
【後期】 25～27回目	【課題曲⑦】Bメロのスラップフレーズは何拍目にブルが来ているのかしっかり把握しておく。エンディングはロストしやすい構成になっているので、小説数を数えるだけではなくメロディラインを歌えるくらい覚える。ベースソロ時のパフォーマンスを考える。
【後期】 28～30回目	【課題曲⑧】A、Bメロのダークさに打って変ってサビでは一転明るい雰囲気になる。その時のダイナミクスや、その他の表現方法に注意して演奏する。ユニゾンフレーズは自分と相手の呼吸を合わせて演奏する。
【後期】 31～34回目	後期テストと復習 ■後期試験：課題曲の演奏にて「リズム / ダイナミクス / ステージング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / ダイナミクス / ステージング」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	上手に演奏するということは、表現したいことを再現するために必要な要素ですが、この授業ではその他の重要な要素でもある「ステージング」のことも学んでいきます。ライブを見に来てくれたお客さんに満足してもらうにはどうしたらいいか常に考える思考回路を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタイルⅠ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	アンサンブル発展Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ギター/ベース/ドラム						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	レコーディングサポートとして、吉野裕行、千葉翔也、Amala、muque、9lana、Mega Shinnosuke など、声優・バンド・ボカロP・ネットシンガー等、幅広いジャンルの楽曲に参加。現在は福岡県内を中心に、ライブやコンサートのサポートミュージシャンとしても活動中。						
授業概要							
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。							
到達目標							
・様々なジャンルのベースプレイ、特にリズムの特徴などにフォーカスし学習する。代表的なアーティスト、楽曲を知り、題材のフレーズを実際に演奏し自身のスキルアップに繋げ、代表的なアーティスト、楽曲を知ることにより各音楽ジャンルの特徴を理解する。							
・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等) 【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等) 【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 4～7回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chili Peppers等) 【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等) 【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等) 【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 8～10回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等) 【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 11～13回目	テストレビュー/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 14～17回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等) 【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等) 【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 21～24回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等) 【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 25～27回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等) 【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) /後期まとめ
【後期】 28～30回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) /テストレビュー
【後期】 31～34回目	【年間まとめ】 ■後期試験:課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	当授業は、様々なジャンルの音楽に触れ実際に演奏することで、自身の演奏・音楽的知識、可能性の幅をどんどん広げていきます。スキルアップはもちろん、今まで知らなかったジャンルを身につけることで自身の活動での演奏、作曲、アレンジにも役立つでしょう。
備考	